

練馬区立豊玉障害者地域生活支援センターきらら 地域生活・高齢期支援部会

1 専門部会での協議内容等

(1) 専門部会開催日

平成29年10月19日(木)

平成30年2月15日(木)

(2) 協議内容

- ① 地域生活支援拠点に関する協議
- ② 地域ケア圏域会議での協議について

(3) 地域ケア圏域会議に参加する経緯

練馬高齢者相談センターでは、各支所で開催される地域ケア個別会議を基に、年2回地域ケア圏域会議を開催し、地域のネットワークの強化、地域課題の発見等に取り組んでいる。

平成29年度の個別ケア会議では、ひとり暮らしの認知症高齢者の課題が多く抽出された。認知症をひとつの生活障害ととらえると、ほかの障害のある方も地域での生活において共通した課題がある。一方、障害者の高齢化、障害者を介護する家族の高齢化等に関する課題もある。そこで、練馬高齢者相談センターからの依頼を受け、9月15日の練馬地域ケア圏域会議に障害者地域自立支援協議会専門部会として参加し、共通する課題について共に検討することとなった。

(資料)

練馬区における地域ケア会議について・・・資料1-2

練馬地域ケア圏域会議(9月15日)の概要・・・資料1-3

2 地域ケア圏域会議に参加して、各委員からの意見等

【情報】

- ・地域で相談できる場所や、情報を得るための手段が分からない方が多いことが課題だと感じた。
- ・初めて地域ケア会議に参加して、多くの方が高齢者の諸問題に取り組んでいることがわかった。多様な関係者とのつながりができ、地域の様々な支援者の現状を知ることができた。様々な分野でのつながりが必要だと感じた。
- ・今後、他分野の関係者等と顔の見える関係をこつこつ築いていくことが、高齢期支援に円滑につなげるための一歩だと感じた。

【高齢・障害の支援の連携】

- ・高齢者支援に携わる人と主に障害者を支援している人では、課題となるところの視点が違っていることが分かった。今後、介護や障害の分野を超えたお互いの理解や連携が、ますます必要である。
- ・障害者が高齢になる際、障害分野だけでなく介護保険等を含めた全体的なコーディネートが必要となる。日頃から継続的に具体的な事例を通して関わり合うことができるとうい。

【地域での関わり、つながり】

- ・個人情報保護の意識が高まっていることもあり、隣のことがわからない世の中になっている。「おせっかい」のメリット・デメリットがあるが、近所・地域でのたすけあいが必要である。
- ・地域ケア圏域会議で、「障害のある方への接し方がわからない」という意見があった。婦人会・老人会・防災訓練等の地域の集まりに日頃から出向く等、障害者が「出しゃばる」と良い。地域は「つなぎ」の役割があり、日頃からの関わりが重層的な支援につながるのではないかと。

3 全体会での協議事項

- ① 障害のある方が高齢期となり、かかわる人やサービス提供に変化が生じるにあたり、どのような情報や支援が必要か。
- ② 介護保険・障害施策に携わる支援者や地域の方が、お互いの理解や連携を図るための方法や仕組みについて
- ③ 近所、地域において助け合いができる関係性をつくり、障害のある方への接し方を多くの人に知ってもらい支援につなげていくために、日頃から意識していくとよいこと、取り組めることについて

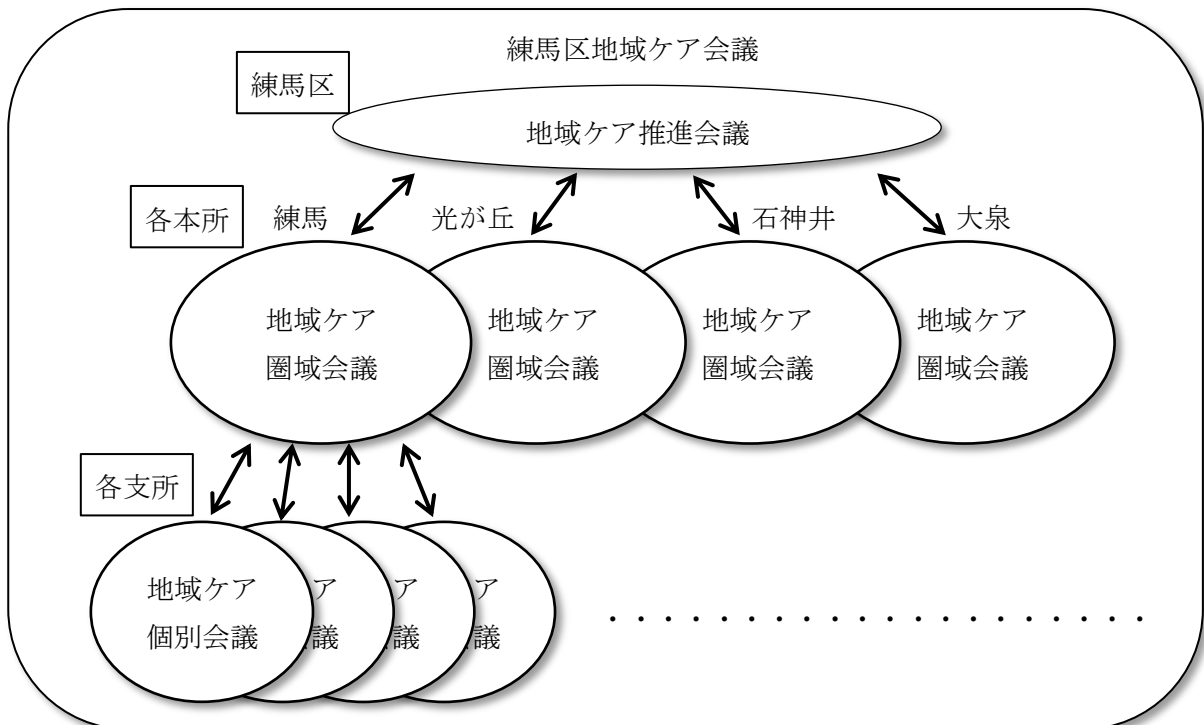
平成 29 年 1 月 20 日
 高齢施策担当部 高齢者支援課

練馬区における地域ケア会議について

1 地域ケア会議の構成

会議名	主催者	目的	構成員
地域ケア推進会議	高齢者支援課	地域包括ケアシステムの確立に向け、地域ケア圏域会議で把握された課題および社会資源の現状を共有するとともに、区の対策を検討し、政策形成を図る。	練馬区地域包括支援センター運営協議会委員
地域ケア圏域会議	高齢者相談センター本所	高齢者相談センターの各本所圏域内において、地域課題や社会資源の把握、地域包括支援ネットワークの構築を図るとともに、新たな資源開発や地域づくりについて検討する。	医療関係機関、介護サービス事業者、民生児童委員、町会・自治会、警察、消防、庁内関係課等
地域ケア個別会議	高齢者相談センター支所	各支所が担当する地域において、個別ケースの検討を通じ、高齢者の課題解決を支援するとともに、課題解決に向けた社会資源の把握や地域包括支援ネットワークの構築を図る。	個別課題に関わる支援関係者 例) 医療関係機関、介護サービス事業者、民生児童委員、町会・自治会、警察、消防、近隣住民、庁内関係課等

2 地域ケア会議イメージ図



練馬地域ケア圏域会議の概要

主 催	練馬高齢者相談センター
日 時	平成29年9月15日（金） 10時～12時
場 所	練馬区立 区民・産業プラザ ココネリ・ホール
参加者	民生委員、介護サービス事業所、練馬精神障害者家族会、練馬手をつなぐ親の会、練馬区肢体不自由児者父母の会、練馬区身体障害者福祉協会、就労継続支援B型事業所、病院関係者、練馬区社会福祉協議会、障害者地域生活支援センター、はつらつセンター、行政職員、高齢者相談センター（本所・支所） 計91名
テーマ	地域包括ケアシステムの確立に向けて ～さまざまな生活障害を抱えるひとり暮らし高齢者の課題を地域で考える～
検討事項	・認知症もひとつの障害と捉え、他の障害を抱えている区民と同様に、ひとり暮らしの共通する課題解決に向けて、グループワークを通じて地域で多角的に検討し、解決できない課題や問題を抽出する。
検討結果	・ひとり暮らしで生活に支障のあることとして、食事、洗濯、買い物、移動手段の確保等生活課題に加えて、近所づきあいや人とのつながりなど、地域コミュニティの不足が確認された。 ・買い物については、昔の「御用聞き」や地域で気軽に配送してもらえるシステムがあると良いなどの意見が多かった。 ・ひとり暮らしの認知症高齢者や障害のある方が、地域の防災訓練や地区祭などに出やすくなるよう、地域とふれあう機会や場所を増やしてはどうか、との意見が出た。
検討を通じて把握された課題	・高齢者の介護サービスや障害サービス等について、制度の垣根を超えた連携や、新たな仕組みづくりが必要である。 ・ひとり暮らし高齢者や障害のある方の全員が支援を必要としているわけではないことから、自立度の高い方のための活躍の場や、居場所、仲間づくりの充実が必要である。 ・高齢者や障害者およびそのご家族から、地域の社会資源についての情報が不足しているとの状況があるため、高齢者相談センターからのさらなる情報提供や周知が必要である。